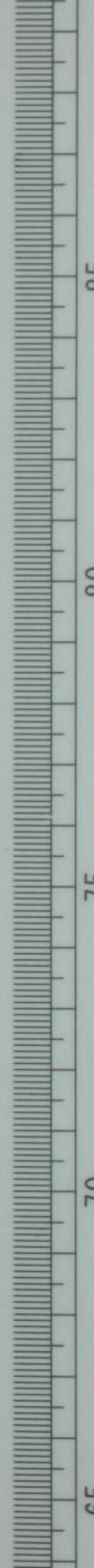


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



涼城子撰
片歌道

^ 5
1530
2



65 70 75 80 85

へ5
 利
 1530
 乙

片歌二夜問書序

一 宗曆（一）ふ未（二）法（三）吸（四）家（五）度（六）自（七）緩（八）た（九）う（十）。城（十一）志（十二）る（十三）の（十四）く（十五）に
 見（十六）び（十七）と（十八）。毛（十九）ぬ（二十）の（二十一）圓（二十二）の（二十三）形（二十四）を（二十五）磨（二十六）く（二十七）。や（二十八）も（二十九）ひ（三十）ば（三十一）う（三十二）を（三十三）身（三十四）に（三十五）ふ（三十六）ま（三十七）に（三十八）め（三十九）ま（四十）。
 た（四十一）ま（四十二）ふ（四十三）に（四十四）久（四十五）く（四十六）い（四十七）ぶ（四十八）う（四十九）を（五十）お（五十一）り（五十二）ひ（五十三）。ま（五十四）も（五十五）も（五十六）と（五十七）い（五十八）へ（五十九）い（六十）ひ（六十一）ま（六十二）う（六十三）を（六十四）は（六十五）ら（六十六）。
 毛（六十七）ぬ（六十八）あ（六十九）ま（七十）も（七十一）も（七十二）こ（七十三）も（七十四）か（七十五）い（七十六）を（七十七）て（七十八）ご（七十九）も（八十）に（八十一）つ（八十二）ま（八十三）た（八十四）ま（八十五）と（八十六）停（八十七）み（八十八）に（八十九）。
 い（九十）と（九十一）だ（九十二）い（九十三）く（九十四）い（九十五）と（九十六）も（九十七）む（九十八）い（九十九）の（一百）ま（一百一）か（一百二）い（一百三）つ（一百四）け（一百五）た（一百六）ぶ（一百七）も（一百八）も（一百九）又（二百）も（二百一）む（二百二）ん（二百三）の（二百四）や（二百五）れ（二百六）。
 う（二百七）ん（二百八）た（二百九）り（三百）ぬ（三百一）は（三百二）い（三百三）む（三百四）と（三百五）て（三百六）人（三百七）の（三百八）ま（三百九）も（四百）も（四百一）言（四百二）の（四百三）ま（四百四）に（四百五）く（四百六）は（四百七）な（四百八）が（四百九）ま（五百）の（五百一）冊（五百二）子（五百三）。
 い（五百四）ひ（五百五）と（五百六）も（五百七）む（五百八）い（五百九）の（六百）ま（六百一）も（六百二）二（六百三）夜（六百四）問（六百五）書（六百六）と（六百七）ふ（六百八）つ（六百九）ど（七百）に（七百一）つ（七百二）け（七百三）し（七百四）て（七百五）存（七百六）す（七百七）ま（七百八）す（七百九）。



と毛野子梅園有 四云度素梅記

片歌二夜問書序

○素梅岡 俳諧てふもの興オコとほつとほめりぞ

○緩茶 俳諧たれんはほツバまにほまの時よりつとまを

ぞ今ホ葎ホりてふもの興オコとほつとほめりぞ

およそセ捷トウ頭ウカのハはをナ事カひラてマ一マ句トとほつとほめりぞ

奉フ者ゲはカあカいタまタとマ短ニ歌カのハをナ事カひラてマ一マ句トとほつとほめりぞ

事テ紀イ出イたタらカらカはカこコしシびビぬヌるルがガのノ名ナをナ行キ前マ

とトひヒ

折テいイひヒのノ短ニ歌カとトりリ別ワてテ名ナもモなナしシのノ由ユ系ケにニ志シ也ヤ

片歌二夜問答

〇月

た先ぞあせが俳諧を重く唱ふ侍者おほ

○梅岡の古の片歌を少む

○後若いけの徳書に此侍りの多しそに一首二首をあむ

波形 邪長 邪和 岐幣 能迦 多由 久元 章

多知 之 母 上代之片歌数首見
古今片歌明題集

あし日な去る旅にいりて詠たふ侍片あり愛に思ひお

の意を解む

波形 邪長 邪和 岐幣 能迦 多由 久元 章
此の由と八方ありし久元章ハ云々し
多知 之 母

の意し

格にあきて古郷を思ふハ吾々家の才より立来帰をて謀小

愛を存くハ意を以て古今旅人の情ハ一しとくに相々あり

一々情の厚さを見侍る

秀今より心を旋返歌の片歌と唱ふ侍半七なる侍が短おたて

しる侍今も侍おたて鼓白し出く十九言侍ハあつて古久

ども今出てもあつたる侍を別々むために旋返歌の片歌と唱ふ

もむく十九言十七言十四言侍も侍侍行くこの名目と志侍

○梅岡 盤溪 禪作を俳祖と志くまふ書 海屋を故也何

るを今に例のあつてへや

○後者 芭蕉ハカホトノ意希のゆゑをむむづり一うの業にづつ
ハ一うむむこに理あひはけり

身今とをいし一にとほつてバカにかなひも推た難あはれ
却て度々今の子を希を必し海をひつれ今や一の片を
まとい先に書一にのびつて片旅に意をまゝり一とつ
意白の難もをらんまゝと意にあひばるる一ぬも文にわらふ
あましく片旅よむむと長途人なるべし希希にハはづるべ

○梅岡 今や一の片旅續白あまといし一まけたぬ一あまや

○後者

ヤマトタケノミトカヒ サカヨリ
日本武尊甲斐の酒打に

古事記説

ニヒバ リツクバ
近比婆理都久波吉須奈氏

イクヨ カ子ッ
伊久用加泥乾流

ミヒメ オキナ
時に御火焼く係老くけ御旅を續く

カバ ナヘテヨニハ
迦賀那倍冬月途波許許能川

ヒニハ トヲカヲ
比途波登吉加吉

今よりけは家の意を解む

ニヒバ リツクバ
近比婆理ハ都久波の冠侍を今や都久波を陸路して
カヒ サカヨリ
甲斐の酒打武尊に今や酒打にハハハの日教を

あり藤^{イ子}とくんとあはれ意したのづく^{コシロウ}因^{コシロウ}芳日^{コシロウ}をこころし^{イ子}は
る後あり

す^{カバ}所火院の老人法^{カバ}流ハ迦^{カバ}賀那^{カバ}信^{カバ}氏ハ考^{カバ}へて^{カバ}心も^{カバ}信^{カバ}里。
能^{ヨリ}く^{カバ}監^{カバ}ま^{カバ}ば^{カバ}し^{カバ}又^{カバ}屋^{カバ}並^{カバ}て^{カバ}の^{カバ}ろ^{カバ}ろ^{カバ}あ^{カバ}る^{カバ}は^{カバ}指^{カバ}を^{カバ}屈^{カバ}し^{カバ}に^{カバ}ぞ。
ろ^{カバ}に^{カバ}指^{カバ}を^{カバ}屈^{カバ}か^{カバ}さ^{カバ}る^{カバ}は^{カバ}指^{カバ}を^{カバ}屈^{カバ}し^{カバ}て^{カバ}い^{カバ}へ^{カバ}む^{カバ}十^{カバ}日^{カバ}今^{カバ}あ^{カバ}い
や^{カバ}ご^{カバ}麻^{カバ}比^{カバ}け^{カバ}い^{カバ}ま^{カバ}に^{カバ}あ^{カバ}を^{カバ}も^{カバ}て^{カバ}あ^{カバ}ら^{カバ}し^{カバ}バ^{カバ}カ^{カバ}あ^{カバ}る^{カバ}や

是^{サキ}より^{サキ}先^{サキ}に^{サキ}も^{サキ}た^{サキ}先^{サキ}く^{サキ}る^{サキ}又^{サキ}萬^{サキ}葉^{サキ}卷^{サキ}法^{サキ}ハ^{サキ}尼^{サキ}の^{サキ}よ^{サキ}め^{サキ}信^{サキ}流
佐^{サホ}保^{サホ}河^{サホ}之^{サホ}水^{サホ}乎^{サホ}寒^{サホ}と^{サホ}る^{サホ}殖^{サホ}く^{サホ}田^{サホ}乎
大^{オホ}伴^{オホ}宿^{オホ}祿^{オホ}家^{オホ}持^{オホ}る^{オホ}に^{オホ}續^{オホ}白^{オホ}く^{オホ}く^{オホ}

新^カ流^ル早^サ飯^イ者^ヒ獨^ナ煮^ル飯^イ信^イ里^リ

此^ヒ世^セ今^イや^マに^マ信^イる^ヒ水^ミを^ミ寒^ヒと^ヒく^ヒ田^タ殖^シら^ヒる^ヒ也^ナ後^キ世^セ人^ニ
け^ヒ例^レに^ヒる^ヒひ^ヒと^ヒ信^イる^ヒを^ヒ寒^ヒと^ヒく^ヒ田^タ殖^シら^ヒる^ヒを^ヒ出^スて^ヒて^ヒこ^ヒ
の^ヒを^ヒつ^ヒる^ヒに^ヒけ^ヒ例^レと^ヒ

○^{ツギ}輪^{ツギ}向^{ツギ}連^{ツギ}流^{ツギ}の^{ツギ}お^{ツギ}こ^{ツギ}し^{ツギ}信^イる^ヒも^ヒあ^ヒの^ヒた^ヒ先^ヒ一^ヒる^ヒ信^イる^ヒ又^ヒを^ヒ信^イる^ヒを^ヒ
續^{ツギ}く^{ツギ}ま^{ツギ}て^{ツギ}ふ^{ツギ}の^{ツギ}に^{ツギ}も^{ツギ}信^イる^ヒる^ヒ古^コに^コお^コい^コく^コ例^レあ^コる^コや

○^{ニサ}後^{ニサ}昔^{ニサ}此^{ニサ}例^{ニサ}古^{ニサ}に^{ニサ}り^{ニサ}今^イも^イあ^イる^イて^イふ^イの^イに^イ連^レ流^レに^レり^レ今^イも^イ
さ^{ニサ}ら^{ニサ}び^{ニサ}ま^{ニサ}あ^{ニサ}ハ^{ニサ}雅^{ニサ}言^{ニサ}を^{ニサ}の^{ニサ}ひ^{ニサ}つ^{ニサ}を^{ニサ}ま^{ニサ}を^{ニサ}古^コ流^レに^レる^レ物^{モノ}後^キに^キ正^シに^シ
非^ヒ流^レま^ヒあ^ヒら^ヒし^ヒに^ヒ替^カり^カる^カ流^レを^レ信^イる^ヒふ^ヒる^ヒ之^レも^レ心^{ココロ}好^スぬ

事をもさひし^{ツギ}續^クく^ルこ^トころ^ノに^アお^ハる^ヒ日^ヲを^サ費^スひ^ク思^ヒひ^アは^シけ^ル事^ノと
 つ^グべ^テい^ハふ^クこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 こ^トを^シた^ド人^トも^シ真^ルき^{コト}に^シて^ハ彼^レが^ナら^ズに^シて^ハ雅^シ心^ヲを^シま^すべ^テと
 身^ヲ月^ノは^ト源^ノ心^ヲを^シて^ハ巻^クて^ハお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 言^ヲを^サ言^フる^ヒか^クこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 志^ヲを^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 況^カむ^ト俳^ノ諧^ノの^ト名^目を^シて^ハ巻^クて^ハお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 巻^クて^ハお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 を^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ

是^ノを^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 片^ノ津^ノ及^テび^テ續^クる^ヒ事^ノと
 外^ノの^ト事^ヲを^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 有^ク又^テ信^ヲ談^ヲな^す事^ノと
 凡^ノ事^ヲを^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 こ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 人^ノの^ト心^ヲを^サ言^フる^ヒこ^トろ^ノに^アお^ハる^ヒ思^ヒひ^ヲか^ク今^ノ人^ニを^サ言^フる^ヒ
 あ^らび^に棋^ノの^ト圍^ニお^いる^ヒ事^ノと
 及^テび^テ續^クる^ヒ事^ノと

せめていふまゝさうもあつていふにがめのをさるゝびや。さういふ
 あゝ先かゝるはひさかた日かたはるばるの國をハ漢ハ字をさすてくはく
 の意をさす。ハ。皇朝ハ何のあやまるといふも。後世は漢ハ字を
 けりていふもさういふ。さういふのめを集りも悉く文字をあらうめ
 文ハ漢ハ字ハ日かたに用ゐるひさかた漢去の文字なう。さういふ
 漢字をさすも。さういふ文字をさしたん。さういふの助も。さういふ
 事ハ。さういふの。げんや。又ハ。さういふの。さういふの。さういふの
 る。さういふの。さういふの。物産にあらう。さういふの。悉く。さういふの。さういふの
 せう。さういふの。さういふの。世に。さういふの。さういふの。さういふの。

俗漢ハ。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。

〇論向 悉く。南。北。東。西。を。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。

さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。

人。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。さういふの。

○後言 文まなすハ此後あり免キ、秋のまじり異じ、
 文まなすハ不ぞうハ正まのこまむ、又ハ、
 正と、正を改めど、りみ故も、正と、
 短歌にまじり、今、あ、また、
 正と、正を改めど、りみ故も、正と、
 字も、まじり、
 正と、正を改めど、りみ故も、正と、
 正と、正を改めど、りみ故も、正と、
 正と、正を改めど、りみ故も、正と、

漢やを起といひ、
 あまの、
 今法、
 ○禱向、
 後言、
 鬼道、

鷲冠たけいし。是か。り。も。ど。や。鷲冠たけに鷲冠の字を置べし。ん。
 又字をりてある也。鬼蓮オニハスとなほと。ち。あ。べ。い。ほ。け。い。し。と。れ。が。え。
 た。は。ま。は。中。の。洞。と。ば。い。だ。め。を。知。得。ら。ず。か。は。ら。る。た。ら。あ。ま。り。
 志。う。れ。も。偏。屈。に。鷲冠。に。正。に。是。漢。を。こ。る。い。ふ。ぞ。れ。ハ。漢。を。よ。
 工。を。解。せ。ま。ふ。人。に。漢。を。と。あ。は。漢。去。の。者。こ。る。人。を。鷲冠ケイコウに。
 い。た。び。キ。イ。テ。ウ。と。い。ふ。た。ら。へ。は。ご。く。日。本。人。キ。イ。テ。ウ。と。そ。ん。く。
 一。と。い。ふ。も。と。も。ま。ず。い。ふ。人。の。ほ。べ。う。び。唯。キ。イ。テ。ウ。と。お。や。え。い。ふ。
 の。こ。し。九。日。は。な。い。ま。の。い。ひ。列。と。い。ひ。漢。者。と。い。ひ。異。者。と。い。ひ。別。別。ち。あ。は。し。
 け。い。は。な。異。國。人。の。身。に。も。あ。ら。ず。漢。者。と。い。ひ。漢。去。た。る。人。の。身。に。も。

五。ぎ。の。む。と。並。に。日。本。誌。者。刊。し。ハ。中。ハ。韻。鏡。を。り。て。考。へ。あ。ら。る。と。し。
 とも。第。ハ。後。去。に。あ。ら。は。べ。る。が。者。に。お。け。は。日。本。誌。中。の。者。を。り。
 何。ぞ。あ。ら。を。漢。音。と。い。は。む。た。ら。へ。は。入。聲。の。字。を。り。く。
 又。人。名。を。キ。と。え。む。日。の。本。誌。人。ハ。音。と。え。又。音。と。い。ふ。字。に。
 訓。の。あ。ら。む。く。の。字。を。入。た。は。ら。日。本。誌。初。し。五。加。ハ。漢。者。を。り。も。
 一。と。の。字。を。入。れ。く。日。の。本。誌。初。と。も。核。校。の。た。ら。ひ。を。た。先。い。
 お。ゆ。一。事。と。今。や。う。の。行。款。に。お。り。は。者。刊。の。補。文。に。あ。ら。む。
 〇。補。同。古。も。五。加。結。て。今。よ。に。杜。る。人。數。を。と。り。ば。杜。ら。は。あ。ら。む。
 お。の。く。と。さ。く。家。と。い。は。る。中。に。自。他。を。あ。ら。は。さ。る。と。い。ふ。

稱せし時中後支考麦林名を志しは此人くはるごとく事な
正法は

○後言 貞徳いささくび重光ハ秋子をりて家なるをさし
志の是く正異る時や。是ハ秋是ハ佛造り重く別く佛造ハ
正法の戲言と云ふ所なれ。秋を解く時ハ正法ハ佛造の時
漫いも自ら又思ふまじく佛造をひるべし。重光ハ佛造
の家は兼あり。是を元氣と云ふ。何なるを正法重光を元氣の
おとく。余の人種うまこといふも。支考志はまじく。是ハ佛造に
源をまじく。日本秋に替るむ。此ゆゑに。よく強はるるを

賊とに^{オッ}。芭蕉麦林ハ河の本と云ふ。ハ。秀一源もあは。是ハ
佛造とのぞけし。佛し

佛問 志くはば。何ハ芭蕉なる。麦林ハ。いし。

○後言 片つゝ。これハ。いし。び。中。と。佛と。大に取捨あり。是ハ芭蕉
に。おけ。佛。ハ。後世に毒を。の。一。或ハ後世に毒を。踏し。

○佛問 審は。いし。

○後言 世に佛造て。命の。度く。引り。ハ。芭蕉の後。故に芭蕉
に。よく。さ。し。人。さ。一。家。に。お。い。く。お。の。く。作。は。る。後。の。言。い。し。
も。芭蕉。に。ハ。此。何。ある。と。許。し。く。芭蕉の毒を。た。ら。せ。佛。と。し。せ。知

かやうのあ言とくにきくべにいらる侍雅言のりも二の目
 をならぬあ言とくにきくべにいらる侍雅言のりも二の目
 む言のあ言とくにきくべにいらる侍雅言のりも二の目
 一はのあ言とくにきくべにいらる侍雅言のりも二の目

表下五言

山の突こ	寺遷家	紙燭うさ
門の塙 <small>カキ</small>	ふぐりか	小はうづあ
棧 <small>サス</small> 古 <small>コ</small> や <small>ヤ</small>	三布ぬん	麻角 <small>ト</small> 菜 <small>サ</small> か
河取 <small>オトリ</small> 城 <small>コシ</small>	出逢うさ	糸世 <small>イト</small> のぬ

こまうとそ	新橋 <small>ノキ</small> 水 <small>ミ</small>	落 <small>ラ</small> こ <small>コ</small> か
やぬと家	料理 <small>リ</small> 仕 <small>シ</small> 向	世 <small>セ</small> さ <small>サ</small> の酒
別 <small>ベツ</small> 登 <small>ザ</small> 友 <small>シキ</small>	三月城	替 <small>セ</small> 中 <small>ナ</small> つ <small>カ</small> さ
道 <small>ミチ</small> 堂 <small>ドウ</small> 野	茶 <small>チ</small> 五 <small>ゴ</small> 鉢	酒 <small>サケ</small> 五 <small>ゴ</small> 鉢
男 <small>オトコ</small> の <small>ノ</small> ぬ	ア <small>ア</small> タ <small>タ</small> ニ	替 <small>セ</small> 戸 <small>ド</small> の <small>ノ</small> 菊
替 <small>セ</small> 戸 <small>ド</small> の <small>ノ</small> 城	清 <small>チヨウ</small> 堂 <small>ドウ</small> の <small>ノ</small> こ <small>コ</small> よ	

是の中は、ふはうづま、水橋が、男が、なま、ハ、何の難うあらむと
 りんくもあらむ、ふは道の相はつ、まの、は、何の言、おと、は、何の事
 ハ、知、侍、人、に、お、い、て、お、は、い、ま、さ、し、水、橋、が、男、の、二、の、も、河、を、な、さ、う、は

まはに源一

テバナ

ひはつむきましく梅の葉のわが

とよあるまひはつむひのまごあまはくく白は梅を花の

ハジレキ

タハ

フーロロカニ

ムリハ

ヒシカラ

イヤキ

まごあに耐え懐紙を貯まはつむひの葉のまは

アツク

はまはつむひかむひんはのまごあまはつむひ

あまはつむひを帯をぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

ハナ

スツ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

佳人うき巻ましくいまはたの春

コモ

世の人おまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

ユタカ

ヒシカラ

イヤキ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

レンフリ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

ヤセシ

タイ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

クシ

カラバ

モノヨミ

アガメ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

あまはつむひをぬくをはつむひをぬく葉はつむひ

まはーやまの巻の巻に出つー

海を渡る巻の巻はこゝろを渡る巻とてくちの巻もと野人巻

はーまはの巻の巻はあまの巻にまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

近江巻の巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

まはの巻はまはるとまの巻とて

りびと保に保をつけど知らず人殺感ひくが保をつけの
河の例おなへばいよにまつがりに蘇る保の

あいにせし保とみ言下み言まはにいよ多福く何れ多にたかむと

晴まへんあひびく一とまの言まはまへん保人たかむかてど
ク

雅言にみ保まへ又一編に世兼とまの世兼天下の人ま
ヒトキ

取保まのあまもあむむらあま保人といふまはらひ
ヒ

狩りまのつかへ保にまへび後人あるまへ世兼のあまい
ヒ

後人保保の世兼の毒にあまはるこまぬか何くまはらひ
ソノヒイカシ

まはらひ保人まへん何ぞか保をたかむまはらひまはらひ
ヒ

世保にあらびや

又

瓜ウリの皮カハむらむら瓜が蓮レン其割野カ

由ガイリ裡離ヒナ徳本偶ニギキウて是れ齊キヨウケかまよ

吾コト弟ハコや古タナるもの石セ社セ脊ド戸ドのい

命オ命メ傳コや他ニのやうか酒サケ五イ味チ

仙ニ命アヒ一ヒや新ニ子アヒぬくべ弟ニ五イ味チ

此たぐびききく人二五量の意味あまも何うせむ世に愛あつふ
ムリヤク イミ

あまもかくのこく保をたかむり人ヒキやまてふものまあらぬ

阿ケ 誘ふ海むづりぬ。阿能徳の虫いへ海芭蕉を海むづりぬで。
中下の書ひを志ほぐー

○梅岡 此況大に奇なる事とせむ。芭蕉一世のふかひんてい。
けふ海むづりぬとや

○後言 身今のふかひんてい。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬの
集を擧ぐ。さゆり海むづりぬ。録又いうにありん

○梅岡 大人^{ウレカ子}書く。芭蕉^{シメニ}に。阿能徳^{ヨキ}のふかひんてい。海むづりぬ。
といふ物を定む

○後言 善るとハ。ウレカ子。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。

ヨキ
の善むに及びごー。先今やうの片ふたよに。阿能徳のふかひんてい。
らごー。てす。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
を定け

あうくと日ハつ。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
夏^{ツハモノ}のふかひんてい。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
ひざんや。阿能徳^{カフ}のふかひんてい。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
阿能徳^{アラウミ}のふかひんてい。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。
ふ月を。阿能徳^{モガミカハ}のふかひんてい。阿能徳のふかひんてい。海むづりぬ。阿能徳のふかひんてい。

又月や六日もさの長にち細き
 焚内イナウや晴ヤミれ方ゆくコ旋目井のさ
 山里オンハ菊カイ葉オツ集る梅のさ
 ともかくらうカレうヲてや香ハナの枯バ花ナ
 喚ウねガをヒススや柳ヤのウー海道道はアあ
 山ス越ミもレくリ何サや葉ら菜う菜ー葉ら菜
 若ヒ下バ子リも頂るカ人カにカやカまカーカ絶カ頂カか
 是等のたぐひおにもあはへカてカ家カにおほえさ

○海同 芭蕉のうさえほにちもてを梅にちあはへさ

まあえし海人の思ひ入持まとい異るるをさう歌り
 ○後者 ちほは懐の中をたへる海に中は世の片歌はをよみいひ
 見おがえし海に

小コ魚ガさヒの柳ア涼アーアやア答ア下アが家
 かほくはコーコ小コ葱ナかガくハのハ紗ハ志ハ湯ハ
 夏ナもナくナもナ唾ナ下ナの葉ナはナひナらナうナらナうナ
 月ツもツやツーツ梢ツハツるツをツりツらツうツらツうツ
 涼スースさを香ス者スにスてス祈スまス海スらス
 是ス不スとスース馬ス鹿スオスらスんス葉スはスはスはスゆス

か海境井カヒにいりて八世の人及びまにありじ

又

壺ユフカホヤ 東の廟カハヤに旗シソク掲と置し

けたぐひ漫ミナリにりひ換ふるのにあじをオモキ越と相ヨリ中シロ授シロ中

すかろしといふ

○梅オモ同 春オモあじびとらふもあおもひまは凡オホ好ヲたり古コ地チ好ヲる

すこ度カラ碁サキ乃ノととさぞこは本ムシ権リるぞやゆゆる世の人ヤのれを

あげきあると称セウきふ辨ワキ別スをばすむ

○後コ者レ 是コ等の白シ相シをまゐりばゆふにさむさむらクいイ

の理チを事コトだりしははせむは落オち葉ハをさすサはる

梅ウメ同 中ナカ相シのオりトは素ソ行カン

○後コ者レ 赤ニいハ白シいむんニとありとト試シはシ古コ地チ度ト相シ本ムシ権リ

るぞのまをさサにニ出デせセゆるに並ナラありとト度トもモくク法ホウ山サン

せよ酒シウあアりしてシ碑ヒとトん

○梅ウメ同 世セに待マ待マせり目メとるに人ヒトのり又マ多タくはカや

○後コ者レ 待マ待マせり色シキの酒シウと目メにあじアはハたタぐひハ御ミ中チウ也ヤ

あじアのシ出デせセゆるをサにニ御ミ中チウ也ヤとトあアりリふフつツるル海ウミ

味アジいイ今イマとトんニはハ是コノたタめて御ミ中チウのノまマもモ揮ヒりリぬヌにニ身ミ

ろくを夏はし

○梅岡 イザヨヒ 十六夜 十七夜 十八夜 十九夜 のたぐひ 月の名目にかへる
すげや エフヨ

○後者 古にありてあはれもなほありていふもふひに 猶ほあはれ
意に 今 既に ニヤウカ 澄みあはれを申し候は世のゆかりある十六
夜の月よりいふも一十七夜よりいふも一十八夜
の月よりいふも一十九夜よりいふもなほありていふもなほありていふも
あはれに改に今や法行ありていふも月よりいふもなほありていふも
月者 イッ 一づいづい月の名目に入らばいづいづい

り一古の行ありていふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
考へありていふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも

井ニチキアケレトエハユフサレハ
歴待月 用乃 門徒者 暮去者

○萬葉集にもあるは古くいふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
はえどいふもなほありていふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
ともいふもなほありていふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
意の下にいふもなほありていふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
いふ十七日の月と云ふもなほありていふもなほありていふもなほありていふも
後の世は イッ 一づいづい カ 一づいづい アテ 一づいづい

モチツキ 十五日 出之月乃高 高カ

ともよみよし 望月もくまなる 十四日の月より後せ

の縁作にーてあし比後く是ハら比那日比の月とせける

あもころの花田あしハる比の目にいよむはあは

やけへさあへさけの月とき

けるうかりかきよのしよもひも又文科のうも

然に晴のはてめーきりるま報者ほぶの音は晴る

る後もまじけはひきけひのしよもひよあははに後ひい

○梅岡 ちれもあはれさよのそまもあはれさよのそまもあはれさよのそま

○優者 りの件ハ片のあはれさよのそまもあはれさよのそま

をなハるあはれさよのそまもあはれさよのそまもあはれさよのそま

たの果より片のあはれさよのそまもあはれさよのそまもあはれさよのそま

つよふ又出止あつてさよのあはれさよのそまもあはれさよのそま

中は世にふるさつさよのあはれさよのそまもあはれさよのそま

志は是山さよのあはれさよのそまもあはれさよのそまもあはれさよのそま

さよのあはれさよのあはれさよのそまもあはれさよのそま

あはれさよのあはれさよのそまもあはれさよのそま

○梅岡 りの件ハ片のあはれさよのそまもあはれさよのそま

ふめり侍境にもおほはらサハ才と境めをタハ曲ニデいふは侍がたに
ひみみにまへのたがへはとりぬ

○梅岡 文喜あまといふむ

○猿蓑 文喜あまといふむ
キヨリクニカウ トモガラ
侍も又方のまは御徳の文もかたに
合くまは葉の文にあぶソモ折ニ文の歌くはぐ
まにねむるべーおほひふ今や
文喜あまといふむ
古は片歌のむいさほくエトアキ文喜あまといふむ
今や片

おとりの多侍り歌もいづもいづも出立の侍後よりいぞ今
木の修後にしてたくとく後侍の徳はまに

ヒサナラバ イナナカバカリハヤカラバ イニツカバカリ
久有者 今七日許 早有者 今二日許

アラン トッ
将有者

けたがひ今の修後におほひも今ゴの片ニマウ文喜タ章イにタ對イをタ侍イ
あんと志はべー

○梅岡 今や片歌音はうつりもあま文喜八劫のこを
う侍といふむ

○猿蓑 あひりたてくサキ割イのイ者イのイ御イかイのイあイはイはイ

ふれど皆日は此詞に〜交は異國イコクの音ふもあつたよ〜
片方の詞は海風ハシカタウも孔雀クシヤクもセシタチも別カワリキかにも〜
あをとりよ又文をハ詞をうたむ自まにゆゆゆ〜
物と別ワカレへくも是白文との違ひぬ〜

○梅雨 ち後夜ツチヤコトにもよふあ〜ん〜んを別ワカレに〜

○後夜 片方をりて〜

それ行旅イタビのみちびと〜
旅イタビむゆゑに〜
〜源を〜

歌

かく〜
〜
〜
〜
〜
〜

吸露菴 あや〜

寶曆十有三癸未卯春二月

新 <small>キ</small> 木 <small>ツ</small> 多 <small>キ</small> 結 <small>キ</small> す結 <small>キ</small> た <small>キ</small> く <small>キ</small> 返 <small>キ</small> く <small>キ</small> や <small>キ</small> 帽 <small>キ</small> 牛 <small>キ</small>	又 <small>キ</small> は <small>キ</small> ふ <small>キ</small> び <small>キ</small> に <small>キ</small> ろ <small>キ</small> 波 <small>キ</small> ぞ <small>キ</small> な <small>キ</small> く <small>キ</small> ぶ <small>キ</small> に <small>キ</small>	連 <small>キ</small> 立 <small>キ</small> く <small>キ</small> 船 <small>キ</small> く <small>キ</small> い <small>キ</small> づ <small>キ</small> ふ <small>キ</small> や <small>キ</small> 多 <small>キ</small> 船 <small>キ</small> ぶ <small>キ</small>	淡 <small>キ</small> 夢 <small>キ</small> 中 <small>キ</small> 人 <small>キ</small> に <small>キ</small> な <small>キ</small> り <small>キ</small> き <small>キ</small> 夕 <small>キ</small> 夕 <small>キ</small> に <small>キ</small> に <small>キ</small>	物 <small>キ</small> に <small>キ</small> く <small>キ</small> 持 <small>キ</small> 保 <small>キ</small> は <small>キ</small> ま <small>キ</small> や <small>キ</small> 一 <small>キ</small> 鑿 <small>キ</small> 粟 <small>キ</small> 中 <small>キ</small> 花 <small>キ</small>	夏 <small>キ</small> ハ <small>キ</small> 名 <small>キ</small> の <small>キ</small> い <small>キ</small> 坂 <small>キ</small> あ <small>キ</small> 里 <small>キ</small> 瓊 <small>キ</small> 脂 <small>キ</small> 菜 <small>キ</small>	水 <small>キ</small> 若 <small>キ</small> 壯 <small>キ</small> 強 <small>キ</small> え <small>キ</small> る <small>キ</small> 毎 <small>キ</small> は <small>キ</small> や <small>キ</small> か <small>キ</small> さ <small>キ</small> は <small>キ</small> な <small>キ</small> く <small>キ</small>	葉 <small>キ</small> 疏 <small>キ</small> が <small>キ</small> け <small>キ</small> 狭 <small>キ</small> く <small>キ</small> 所 <small>キ</small> 親 <small>キ</small> した <small>キ</small> う <small>キ</small> む <small>キ</small> し <small>キ</small> 海 <small>キ</small>	字 <small>キ</small> 探 <small>キ</small> や <small>キ</small> ら <small>キ</small> み <small>キ</small> の <small>キ</small> 志 <small>キ</small> ま <small>キ</small> ひ <small>キ</small> な <small>キ</small> 一 <small>キ</small> 里 <small>キ</small> 塚 <small>キ</small>
黄牛	麥汀	双瓜	笑洲	胡曉	亂鴉	露圓	樹蜂	燕山

赤 <small>ア</small> サ <small>サ</small> カ <small>カ</small> ホ <small>ホ</small>	ぬ <small>ヌ</small> と <small>ト</small> 赤 <small>カ</small> ろ <small>ロ</small> に <small>ニ</small> 糸 <small>シ</small> 結 <small>ケ</small> つ <small>ツ</small> く <small>ク</small> を <small>ヲ</small> 布 <small>フ</small>	巻 <small>マ</small> く <small>ク</small> 息 <small>シ</small> の <small>ノ</small> 見 <small>ミ</small> る <small>ル</small> 衣 <small>エ</small> く <small>ク</small> 裳 <small>カ</small> く <small>ク</small> り <small>リ</small> に <small>ニ</small>	又 <small>マ</small> つ <small>ツ</small> 先 <small>サ</small> く <small>ク</small> も <small>モ</small> 勤 <small>カ</small> く <small>ク</small> ぬ <small>ヌ</small> 杜 <small>ト</small> や <small>ヤ</small> 帳 <small>チヤウ</small> の <small>ノ</small> 一 <small>イチ</small> 急 <small>キウ</small>	女 <small>メ</small> 侍 <small>シ</small> を <small>ヲ</small> 梅 <small>ウメ</small> に <small>ニ</small> 梅 <small>ウメ</small> の <small>ノ</small> 流 <small>リウ</small> 局 <small>キウ</small> を <small>ヲ</small> 掌 <small>テウ</small> る <small>ル</small> 那 <small>ナ</small>	灌 <small>カン</small> 佛 <small>ブツ</small> や <small>ヤ</small> 漏 <small>ロウ</small> る <small>ル</small> か <small>カ</small> 至 <small>シ</small> 松 <small>ソウ</small> 蓋 <small>ガイ</small> 耳 <small>ニ</small> を <small>ヲ</small> 衣 <small>エ</small> 親 <small>シン</small>	
里橋	吹雁	平胡	梅卿	可笑	東奴	星露

四季

素輪

探^{タシ}策^{サク}に花とせそく新^{イナツメ}葉^ハハ
 熱^{イナツメ}内^ナや目の赤^{アカ}にく星^{ホシ}くゆく
 懐^{イナツメ}ひく^ヒや^ヤあ^アり^リく^ク縁^{ヘリ}の星^{ホシ}こ^コ了^{リョウ} 全

篠^ス簾^イを^{カケ}ま^マり^リく^クま^マり^リく^ク了^{リョウ} 破了

傍^{ワキ}く^クあ^アり^リく^クあ^アり^リく^ク 青藍

吹^フく^クあ^アり^リく^クあ^アり^リく^ク 東起

あゆいばちはなるむおほくさるま
さハ何ぐいぐまの夕いハくさるま

糸^{イト}の^ノ神^{カミ}も^モ依^ヨら^ラひ^ヒむ^ムま^マり^リく^ク 吸露菴

吸露菴藏板

江戸通本町三丁目
 須原屋市兵衛

